

14番(大崎 潤子君) 今6月定例議会におきまして、1点目、ごみ問題について、2点目、保育料の無料化について、3点目、北勢線についての一般質問を行います。明確な答弁、よろしく願いをいたします。

まず最初にごみ問題です。

町長は平成24年4月、今回発行されました町政要覧、この中でも生ごみの堆肥化、雑紙の回収など、可燃ごみの約90%の削減で行政コストを下げていきたい、また生ごみの堆肥化検討委員会を新たに立ち上げましたと述べてみえます。そして町長のマニフェストにも、ごみの問題を掲げられているところです。

検討委員会は、平成23年12月5日に委員12名で第1回が開催をされ、今年4月17日には甲賀市の水口庁舎での研修もされており、月1回の会議が進められていると思います。そして私たち議員には、その議事録を配付していただきました。

その検討委員会で協議されている生ごみの処理方法について、その方向性はいつごろ、どのような形で町民に示されるのでしょうか。

検討委員会の活動内容については町民はほとんど知りません。ごみ削減は町民の協力なしでは達成できないと考えています。町民への情報発信は必要なことです。行政と情報を共有する、そのためにも広報とういんのわずかなページでの発信ではなく、きちっとした広報紙を発行することを提案いたします。

また、町民対象のシンポジウムの計画など、積極的に町民への働きかけが求められていると思います。

東員町ごみゼロプラン策定町民会議は、このようなのをまとめまして出させていただきました。(大崎議員 資料を示す)。そしてこれの目標は2016年度となっております。数値目標はありませんが、このプランの検証も必要ではないかというふうに考えるものでございます。

そして町長のごみに対する考えは、ゼロ・ウェイスト政策に似ているように私は感じます。ゼロ・ウェイスト政策とは、ごみの削減を目標とし、それを達成するための具体的な手法を提案することです。日本では2003年、徳島県上勝町で、2020年までにごみゼロを実現すべく取り組みが行われています。34分別で、ごみの資源化に向けた町の意気込みが伝わってまいります。私たちも教育民生常任委員会で上勝町を視察し、本当に驚いて帰ってきたわけでございます。

そして2008年、福岡県大木町「大木町もったいない宣言」大木循環センターくるるんを中心に、循環のまちづくりが進められています。数値目標は2016年です。

そして2009年11月には水俣市にゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言、数値目標は2026年としています。

ゼロ・ウェイストはごみゼロだけでなく、人と人、人と自然のつながりを大切に  
する社会、地域で産出したものを地域で消費する地産地消を基礎にした環境負荷の

小さな地域を単位としているものだと思います。東員町も挑戦し、都市宣言に対する町長の答弁を求めたいと思います。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 大崎議員の「ごみ問題について」のご質問にお答えをさせていただきます。

ご質問にございましたように、町では昨年12月に「東員町生ごみ堆肥化検討委員会」を設置いたしまして、全戸を対象とした堆肥化を目指して検討をいただいております。

委員会の活動につきましては、委員の方々に生ごみの堆肥化の方法や循環社会の仕組みの構築などについてご議論をいただいております。7月ごろには、委員の方々に、生分解性のごみ袋を利用した堆肥化、バケツやダンボール箱を利用した堆肥化など、数種類の方法を実際に試していただき、その実証結果をもとに堆肥化の方法を選定し、今年度中に50世帯ほどを考えておりますが、対象といたしまして、地域でのモニタリングを行いたいと考えております。

広報等への情報発信も定期的に取り組んでまいりたいと考えておまして、広報とういん6月号で、堆肥化に重要な水分を除くアイデアを募集する記事も掲載をさせていただいたところでございます。

また、アドバイザーとしてお願いをしております橋本力男氏に町民を対象とした講演会を秋ごろに行っていただくという計画もしております。

今後モニタリング実施世帯数を増やし、回収の方法、回数等の調査を重ね、住民の方々の理解を得られる方法を検討しつつ、平成24年度末、今年度末には堆肥化の実施についての方向性を決定したいと考えております。

最後にゼロ・ウェイスト社会宣言都市を東員町でも、とのことですが、議員もご存じのように、徳島県上勝町では2020年までに脱焼却・脱埋立を宣言され、先ほどもご案内のように、34種類もの徹底した分別回収システムの構築を行っておられます。

しかし、私が申し上げます可燃ごみ9割削減につきましては、可燃ごみ全体の約4割を占めます古封筒やメモ用紙など、雑紙といわれる紙類のリサイクルと、5割強を占めます、先ほどから申し上げます一般家庭から排出される生ごみをリサイクルすることでごみを減らすという資源循環型社会のシステムづくりでございまして、上勝町での取り組み、それと上勝町の環境とは少し異なるのかなというふうなことを思っております。

町民にお知らせをするための、ごみを対象にした広報紙を発行してはどうかというご提案もございました。前向きにとらえさせていただいて、検討をさせていただきたいと思います。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番(大崎 潤子君) 答弁をいただきましてありがとうございます。

1点目は生ごみを全戸対象として取り組んでいきたいということで、今年度中に約50世帯、モニタリングをしていき、その結果を見て本年度末に方向性を出したいということ、今、町長述べていただいているところです。

数値的なものはどのように検討されていくのかなというふうに思います。50世帯でモニタリングをしていくわけですので、この結果、本当に東員町全域でできるのかどうなのか、モニタリング50世帯は、どういう形で対象者をお選びになるのでしょうか。その点、まずお願いいたします。

議長(南部 武司君) 水谷俊郎町長。

町長(水谷 俊郎君) 数値的なものにつきましては担当課から答弁をさせたいと思いますが、今年度中に方針を決定して、できれば1年後、平成26年の初めぐらいから全戸で取り組んでいただけるようにはならんかなというふうなことで、今頑張っって協議をしていただいております。残余のことにつきましては、担当部署から、数値的なものにつきましてはお答えをさせていただきます。

議長(南部 武司君) 岩田利弘生活福祉部長。

生活福祉部長(岩田 利弘君) お答えさせていただきます。

50世帯の内訳につきましては、団地のほうで25世帯と在来地区で25世帯で考えております。

議長(南部 武司君) 大崎潤子議員。

14番(大崎 潤子君) モニタリングについては50、50ということではわかりましたが、町長は平成26年度全戸で取り組みたいということをおっしゃっております。そうしますと、そんなに期日がありませんよね。今、平成24年度の6月ですので。ですからこの取り組みについて、町民というのは知ってはいるけれども、どういう方向でやっていくのか、先ほど申しましたように、検討委員会がなされているけれども、検討委員会でどんなことが議論されているのかということは、町民には知らされていないというふうに思います。

そこで広報とういん5月号、6月号、今、町長がおっしゃったように6月号に「水切り」ということでアイデア募集しますということは出てるんですけど、知らせる方法と、町長が本当にごみを減らして、その財源を福祉や教育に回しますとおっしゃるならば、ごみを行政として全課を上げてやっていますという意気込みも含めて、きちっとした、ごみだよりではいけませんので、もう少しカッコいい名前をつけた、そういうものを月に1回、検討委員会がなさっているわけですから、検討委員会ではこういうことが決まりました、こういう方向性ですよということを常に発信をしていかれて、初めてそこで行政の思い、検討委員の思い、そういうのが町民に伝わり、じゃあ一生懸命生ごみをなくすために、あるいは雑紙を回収するために、どんな手だてをしましょうかということにはなると思うんですけど、その辺の意気込

みというのが伝わってこないの、私はぜひそれを中心にした広報紙というのが発行できませんかということをお尋ねをしているわけでございます。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 先ほども申し上げましたように、ごみだよりですか、名前はまた教えてください、いろいろご提案をいただきたいと思うんですけど、そういうものを月1回は難しいかもわかりませんが、検討をしていきたいなど。そして検討委員会のほうでも、そういったものをご検討いただきたいということをおっしゃっていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） ぜひそういう取り組みについて検討していただいて、早急がいい方向性をお示しいただきたいというふうに思うわけです。ごみと言いますが、本当にごみが大変なお金になっているわけですので、ぜひお願いをしたいというふうに思います。

ごみについて、ぜひ町民も事業者も行政の協働を進めるという観点から、環境学習の普及や啓発活動というのが今後どういう形でやられていくのでしょうか。確かにクリーン作戦委員が小学校のほうへ出てお話しなさることもございますけれど、一般の我々がそういうことを目にするということがあるのかなのか。やはりそういうことも含めてやっていただかないと、うまく進んでいかないのではないのかなというふうに思いますが、そのあたりについてのご見解をお願いいたします。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 確かに議員おっしゃいますように、町民の皆様に広くお知らせすると同時に、実際に各家庭で生ごみ堆肥化をやっていたいただかなければなりませんので、今ご提案のことは非常に大切だなというふうなことを思っております。そういう場をこれからもどんどん設けていくという検討をさせていただきたいと思っております。できるだけ多くの皆さんに参加していただけるようなものをお考えたいと思っております。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） ぜひお願いをしたいというふうに思います。

私自身も段ボールで生ごみを堆肥化してみたりとか、コンポストをやってみたり、いろいろやっていますが、なかなか長続きしていないのが現実でして、今は新聞紙に生ごみを載せて、広げて乾かして、ごみに出しているのが現実でございます。2万6,000人の町民の皆さんの中には、いろいろなアイデアをお持ちの方もいると思いますので、そのためにもぜひお願いをしたいというふうに思います。

雑紙の回収で、町長は雑紙を回収するための回収袋といいたほうがいいでしょうか、それを手当てをしていきたいということをおっしゃっております。この議事録の中にもその旨が書いてありますが、その方向性はいつごろ、どのような形になるのか

ようか。それとも個人で雑紙を入れる袋を用意するのでしょうか、お願いいたします。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 時期につきましては、担当から答えさせたいと思うんですが、もうすぐなんですけど、今その用意をしております、大体1軒につき月2枚、袋がいくという割合でつくっております。そういうことで各戸配布をして、できるだけそっこのほうへ入れてもらって、そのまま出してもらえれば、紙ですから、そのまま処分できるという形にしていきたいというふうなことを思っています。時期につきましてはもうすぐなんですけど、担当部署から答えさせていただきます。

議長（南部 武司君） 岩田利弘生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 今現在、8月末を目標に準備しております。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 8月末に雑紙回収の袋を提供していただくということですので、あわせて徹底して、町民の皆さんにはその旨を回覧なり、あるいは広報とういんのほうでお知らせをしていただきたいというふうに思います。

それとあわせて、今、ごみの分別収集で、公園とか所定の場所にびんとか缶とか置くんですけれど、そういう回収も必要ですけれど、拠点回収というので、町民の皆さんがいつでも自分の時間の空いているときに、雑紙やら、いろんなものを持っていける場所、そういうのをぜひつくっていただけないのかなという思いがあります。ストックヤードがあるんですけれど、例えばそこを活用するとか、多くの皆さんが庁舎なり、文化センターのほうへいらっしゃる率が高いので、改めてまたどこかの場所を確保してくださいということは難しいかもわかりませんが、人が多く集まる場所にストックヤードをつくっていただいて、乾電池も含め、いろんなものですよね。だから町民が、今日は役場に行くついでにこれを持って行って、そこへおさめましょうということによって、もっと分別に対する意識というのが高まるように思うんです。あちらのストックヤードでは車がないと行けないんですよ。その辺について、ちょっとお尋ねいたします。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 今のお尋ねについては、私どもも（仮称）リサイクルセンターというものを考えておまして、議員ご指摘のように、今のストックヤードでは時々通行止めになったり、非常にわかりにくいところにあるということで、もっと役場の周辺、あるいはショッピングセンターの周辺とかスーパーの周辺とか、その辺で、まだ場所は確定をしておりますが、皆様がいつでも持ってこられる、そんな場所というものを、リサイクルセンターとしてつくってほしいということで、今検討をさせていただいておりますので、広報紙が見つかり、そしてこういう企画でやろうということが、ある程度の目標ができましたら、また議会のほうへ

もご報告をさせていただきたいというふうなことを思っております、またその検討を皆さんでさせていただきたいと思っております。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 今、前向きな答弁をいただきまして、リサイクルセンターというのをつくっていきたいということですので、ぜひ早く実現をして、本当に町民の皆さんが、ごみ問題を自分のこととして考えられるよう、その手だてというのを、ぜひ行政はしていただきたいなというふうに思います。

ある本を読んでいましたら、自治体はそもそも処理業者ではない、処理施設の建設を考えるのは自治体の仕事ではなく、処理施設をどれだけ建てないですむのか、それを考え、その仕事、資源回収をやったり、システムの改善や条例の制定など、これを第一義的に考えて、その後に施設を小さいのにするか、大きいのにするのか、そういう行政の立場であるべきであるということの本を読みましたので、こういう姿勢を貫いていただかなければならないのではないかとこのように思いますが、町長、もう一度お願いいたします。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 至極ごもつともなご意見でありありがとうございます。その方向で頑張らせていただきたいと思います。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） ごみ問題につきましては、町長も大変な力を入れていらっしゃるわけですので、ぜひその力を十二分に発揮をしていただきたいというふうに思い、私も町民の一人として、お手伝いできる場所はお手伝いをしながら、また地域の皆さんにお知らせしながら頑張っていきたいなというふうに思います。

先ほど藤田議員からお話があったように、ブログにお載せになったら、このように載せました、ぜひ議員の皆さん、一緒に対話の中に入ってください、そういうことをまず本当にお願いをしたいというふうに思います。ブログを見て、あつというようなことがあってはならないというふうに思いますし、やはり行政と議会は上手に回っていかねばいけないので、その点だけよろしく願いをしたいというふうに思います。

2点目に入ります。

2点目は、3月議会で出生祝金及び小中学校入学祝金条例が、費用対効果が少ないということで廃止となりました。その質疑応答の中で教育長は、3歳から就学前までの子どもたちの保育料を無料にするという答弁をなさいました。東員町として3歳児から中学校卒業まで、一環した教育方針の中で子どもたちを育て、見守っていききたい旨の内容だと私は思いました。

子育て応援についてはいろいろな支援があります。子どもたちの医療費の無料化、定住促進事業補助金、また他県では給食費の無料化、出産祝金5万円支給、あるいは子どもが3歳になるまで利用できる子育て応援チケット3万6,000円の贈呈などが実施されているところでございます。

東員町としては、3歳児からの保育料を無料にする方針ですが、具体的にどのように実施に当たり、議論されているのでしょうか。財源はどのように捻出されるのでしょうか。

今年度、教育使用料で幼稚園児、415名、2,470万円、負担金では保育所保育料、380人、7,060万円、これは未満児も計上されております。無料となれば年間7,000万円から8,000万円ぐらいの経費がかかるのではと考えますが、いかがでしょうか。

また、給食費はどうなるのでしょうか。預かり保育、延長保育はどうなりますでしょうか。そのような内容をお示ししてください。

そして今後町民にはどのように説明をしていかれるのか、あわせて教育長の答弁を求めます。

議長（南部 武司君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 大崎議員の保育料についてのご質問にお答えをいたします。

先の3月議会におきまして、祝金支給条例廃止後の代替施策として、3歳以上の保育園及び幼稚園の保育料を無償化し、子どもたちの豊かな育ちを社会全体で責任を持って取り組む「実質的な義務保育」を進めてまいりたいとお話をさせていただいたところでございます。

現在教育委員会事務局におきまして、情報収集しながら検討をしているところでございまして、この場で具体的にお話しをさせていただくまでには至っておりません。

ただ、方向といたしましては、3歳から5歳までの就学前教育をより一層充実させるとともに、子育て支援の拡充として、保育料の負担軽減という形で考えております。

財源といたしましては、仮に3歳以上の保育料を全額無償にした場合、年度によって増減はございますが、本年度の収入見込み額で約6,800万円の財源が必要となります。出生等祝い金の予算額は約3,500万円でございますので、財源の面からも十分な検討が必要であると考えております。

次に町民の皆様への周知につきましては、町の広報やHPを活用して行っていきたいと考えております。

いずれにいたしましても、骨格案ができましたら議員の皆様にもお示しをし、さまざまなお知恵も拝借しながら具体化を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 教育長から答弁をいただきました。

3月議会から6月議会ですので、まだわずかな月日しかたっていないわけでありませけれど、まだ検討中であるということをおっしゃってありました。

私は、3月議会から3月、4月、5月とたちますので、何らかの方向性なり、詳しいことが着々と教育委員会の中で話が進められているのかなというふうに思ったんですけど、今の答弁を聞く限りでは検討中である、方向性ということをおっしゃったので、ふと3月議会の出生祝金及び廃止条例の時のことが頭をよぎったわけですが、廃止条例をお出しになるなら、それなりの覚悟を持って、こういう条例をつくっていきます、いついつまでにきちっとします、そういうことがあってしかりだというふうに思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

教育長、よろしく願いいたします。

議長（南部 武司君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） お答えをいたします。

私、3月の時にお話しをさせていただきましたけれども、保幼小中の一貫したプランを作成しながら、そしてそれをもとにしながら、無償化についても考えていきたいというようなことを答弁させていただいたと思います。

今いろんなところで情報収集をしております。他府県でどういう形でやっているのか、それぞれの幼稚園で具体的にどういう形ですることが子育て支援になるのかということ、情報収集しながら進めております。

現在案はあるんですけども、案の案ですので、それをこの場で出してお答えをさせるというのは難しいかなと思ひまして、骨格案が出ましたらお話をさせていただくとお答えさせていただきました。

子どもも祝金条例が廃止になった後ですので、覚悟を決めて、いろんな形で子どもたちや保護者の皆さんや地域の皆さんにとって一番何がいいのかなということ、考えながら骨格案を出していきたいなということで、周到に研究しながら準備を進めているということでもあります。

以上であります。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 案の案は持っているけれども、ここで発言することは考えさせていただきたいというような形であったというふうに思います。



先ほどの話の中で、3歳児から5歳児、幼稚園児の場合は無料にするけれども、保育料の負担軽減というのは未満児の保育料の軽減なのか、現在保育園に行ってる子の保育料の軽減なのか、ちょっとその辺がはっきりしませんので、お願いをしたいことが1点です。

子育て応援については、教育長もいろいろなものがあると。私もさっき、るる述べさせていただきました。保育料を無料にするということとあわせて、広い意味で、幼稚園から中学生まで、今、給食をいただいているわけですが、例えば給食を無料にした場合はどのくらいの経費がかかっていくのか。このことについても一つの土壌に上がっているのかどうか、お願いいたします。

議長（南部 武司君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） お答えをいたします。

まず子どもが対象にしたいのが保育料に関してですが、3歳児から5歳児です。給食費に対しては、無料化は考えておりません。そのまま払っていただくという形になります。

以上です。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） そうしますと3歳児から5歳児ですので、幼稚園児も保育園児も3歳から5歳の場合は無料という形でしょうか。現行保育園に入っている子は、例えば2万円だとしますと、その2万円がゼロになるのか。先ほど限度額という言葉が出ました。負担軽減ですか、どういう形で無料というのは理解をするのでしょうか。

議長（南部 武司君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） こちらになりますと検討中であるということで、具体的にはいろんな案が考えられてますけれども、その案を今出すということは控えさせていただきたいと思います。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） そこが私は聞きたかったのですよね。3歳児から5歳児までの子育て支援を応援いたします、だから幼稚園の保育料も無料になるのかなというふうに思ったんですけれど、その点については今の段階ではお答えできないということですので、じゃあその骨格案はいつお出しになるのでしょうか、お願いいたします。

議長（南部 武司君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） お答えをいたします。

来年度、例えば進めていくということになれば予算がかかわりますので、12月までに当然こういう形でという予算案を見なければなりません。ですからそれを逆

算していきますと、それまでに骨格案をつくり、皆さんにお示しをするという形になります。

ただ、期間も含めて十分検討しなければならないというところもありますので、今いつというところは明確には言えないところもあります。それも含めて、今研究をしているというところでございます。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 教育長の答弁の中で、来年度実施をしていきたいという旨でありまして、12月末ぐらいまでには予算査定が入るわけですので、そういうことになれば9月議会にお出しになるのかな、いやいや12月議会なのかなと、そんな憶測をいたしておりますけれど、教育長がおっしゃるように、大変大きな財源も絡む問題でして、それこそ出生祝金がなくなったときに、なぜまだ2年しかたっていないのに、それを廃止にして、小さい子どもたちのほうに切りかえていきましたかという話も聞くわけなんですよね。ですから町民の皆さんがすべて協議をするということは、保育料の無料化に限らず難しいというふうに思うんですけれども、子育て支援をする、子育て世代を応援するには、本当に保育料を無料にするのがいいのか、まだいろんな施策というのがあるかもわかりません。これは教育委員会のプロジェクトチームがあるのか、関係する生活福祉部のほうとの皆さんも入って、そういうプロジェクトチームか何かで研究なさっているのか、そのあたりについてはどうでしょうか。

議長（南部 武司君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 現在は教育委員会事務局、学校教育課を中心に検討しております。そのたたき台のたたき台みたいなものを、部長会というのがございます。そこで検討をしております。

プロジェクトチームというのはまだつくっておりません。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） この問題については、本当に大きな財源を伴いますので、いろんな角度からの研究も必要だし、町民の皆さんの声を聞いていただくことも必要ではないかというふうに思います。

町長にお尋ねしますけれど、この件については町長のご見解はいかがでしょうか。

議長（南部 武司君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 実際教育長は言いたくてしょうがないところまで来てるかもわかりませんが、今、議員おっしゃられましたように、財政とのかねあいがありますので、それを検討をさせていただいている最中でございます。

ただ、子育て支援につきましては、前にも答弁させていただいたかわかりませんが、今、子どもが育つ環境がない、それを何とかしなければいけないという、もう本当に子育てにつきましては喫緊の課題になっております。その辺を手当てをし

ていかなければならない。そういう場をつくっていかなければならないということで、我々はそういう子育てのための場所というものをつくっていくということで考えておりますので、よろしく願いをいたします。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 子育て世代をしっかりと応援をしていく、東員町をこれから担っていく子どもたちのために、どうぞ真摯に取り組みをお願いをしたいというふうに思います。

3点目の北勢線について、桑名、東員、員弁を結ぶ北勢線は大正3年（1914年）4月5日、北勢轻便鉄道として、西桑名、楚原、14.1キロが開通し、東員町内には穴太、六把野、北大社、大木の駅が設置されました。そして昭和6年7月8日に電化され、全長20.5キロ完成し、西桑名阿下喜まで1時間足らずで走り、員弁郡の人々の通勤や通学、旅行に出かける人の利用も増えてまいりました。そしてマイカーのない時代のラッシュ時には、満員で身動きもできないほどの乗客であったと記されているわけです。

まもなく100年を迎えようとするこの北勢線、社会的財産であると私は考えます。近鉄から三岐鉄道はこの財産を引き継ぎ、沿線市町は公的支援、10年間で55億円を行い、人々の大切な足の確保に当たってまいりました。

当初、近鉄が約8億円の赤字を出していましたが、今では3億8,000万円ということで、改善されつつあるのではないかと考えます。

平成25年度以降、北勢線のあり方や財政支援についてどうするのか、北勢線対策推進協議会や幹事会で議論中であり、この夏ごろまでに平成25年度以降、どう市町で支援をしていくのか、結論を出さなければならないようです。

今、赤字だからこれ以上財政支援はすべきでないという意見や、エコ、環境にやさしい社会実現からも鉄道は大切であるなど、さまざまな意見が交わされていると思います。

赤字だから切り捨てるという立場ではなく、どうしたら赤字を克服できるのか、また乗客増加のために何をなすべきか、知恵と工夫を町民とともに考え、情報を共有することだと私は考えますが、どうでしょうか。

また、北勢線は大切な公共交通だと私は考えています。公共交通はまちづくりの一環でもあります。車社会による移動格差社会の一般化の中で、車に乗れない方、外へ出たい声にもこたえることのできるものが公共交通だと考えます。

最後に今後の北勢線のあり方についての町政懇談会が開催をされます。当初は23自治会で開かれる予定でしたが、なぜ6学区になったのでしょうか。日程など、お示しをさせていただくよう、町長の答弁を求めます。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 北勢線についてのご質問にお答えをさせていただきます。

平成15年に近鉄から営業権を引き継ぎました三岐鉄道は、行政から10年間支援を受けることによって経営を安定させ、11年目以降は自主運行するとの覚書を当時の関係市町と結びました。

しかし、赤字が解消しないことから、11年目以降も支援してほしいという要請が、昨年ありましたことから、北勢線対策推進協議会幹事会で検討を重ねてまいり、平成25年から平成27年までの3カ年を支援期間とし、平成28年度以降は改めて関係者によって協議を行うという支援案を示しました。

これを受けた北勢線対策推進協議会で、私は、覚書を反故にする一方的な要請を簡単に受け入れることは住民に対する背信行為であると申し上げ、議会や住民のご意見を伺うことによる時間的猶予をつくること、そのために、平成25年度の1年間は暫定的支援とし、本年度にそれぞれの市町で対応を検討することを提案いたしました。そのように決定をいたしました。

議員ご指摘のとおり、北勢線はこの地域にとりまして貴重な社会基盤でございます。それゆえに、近鉄が営業権を放棄してからこれまで、三岐鉄道に対しまして、財政支援や人的支援を重ねてまいったところでございます。

いずれにいたしましても、この問題に関しましては、議会や住民の皆様のご意見を伺い、行政、住民が協力し、沿線地域のまちづくりに取り組むことにより、北勢線の軌道を残し、地域発展のため、努力を重ねていかなければならないと考えております。

このことに関しまして、住民皆様のご意見を伺う、北勢線を考える町政懇談会につきまして、小学校区ごとに開催させていただくことといたしまして、6月23日土曜日の笹尾東小学校体育館を皮切りに、30日土曜日には笹尾西小学校体育館、7月4日水曜日は神田小学校体育館、7日土曜日は稲部小学校体育館、11日水曜日は三和小学校体育館、14日土曜日は城山小学校体育館で開催をさせていただく予定にしております。たくさんの皆様のお考えをお聞かせいただければと考えております。

当初、全自治会で懇談会をさせていただこうということに予定をしておりましたが、時間的に8月中ごろぐらいまでに、ある程度の町としての方針を決めていかないと間に合わないということでございますので、自治会長ともいろいろご相談をさせていただいて、小学校区ごとにしたらどうだというご提案もいただき、このような形になりましたことをご理解をいただきたいというふうに思っております。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 答弁をいただきました。

今、町長は町政懇談会について、最初は23自治会は考えていたけれど、時間が少ないので学校区ごとに行いますということをおっしゃったんですけど、土曜日と水曜日ですけど、学校区によっては水曜日の7時から8時半という形で開かれる学校区もあるんですけど、それで皆さん集まれる曜日なのか、時間帯なのか、そのあたりを心配いたしますが、日時の設定について、お願いいたします。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 7時から8時半ぐらいということで、1時間半程度予定をしておりますけれども、本当は土曜日のほうがいいということでございます。集まりからいけば。

ただ、自治会長ともお話をさせていただき、2地区については水曜日でもいいだろうということでいただきましたものですから、こういう形にさせていただきました。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 自治会長と相談をして水曜日でも仕方ないでしょうということでしたけれど、町長がおっしゃったように、より多くの町民の皆さん、出てきてくださいという日時の設定となるには、日曜日の午前中なり午後という設定時間もあつたのではないのかなというふうに考えたりいたしますけれど、本当に北勢線について、多くの町民の皆さんに来ていただく、その努力というのもやっていただかなければなりません、周知方法をどういう形でなさるのかなというのが1点です。

そして例えばこの会議に出ていらっしゃいました多くの皆さんが、仮の話が、もう北勢線はそんなに赤字ならば、例えばやめてしまえ、そういう声が多かったといたします。そうすると、それを町長は町民の声であるという形で理解はしていただきたくないというふうに思うんですね。そのあたりについてのお考えはどうでしょうか、お聞きします。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 仮定の話はしにくいんですが、どんな話が出てくるか、そして町民の皆さんが本当にどう考えておみえになるのかというのを十分お聞きをさせていただきたいというふうに思っております。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 仮定の話をしていただきましたけれども、そういう話も出るだろうし、残してほしいという声も出るかもわかりませんが、町民の話を十分聞きたいということですので、それを忘れずに、町民の皆さんのありとあらゆる角度からの声を聞いていただきたいというふうに思います。

町政懇談会をやっていただくことも一つの方法であり、町民の皆さんに、ほかの方法で声も聞いていただきたいんです。北勢線については、町政懇談会だけでなく

て、アンケートをとってみるとか、北勢線を利用していらっしゃる方の声をとっていただくとか、利用していないけれども将来乗りますよとか、いろんな角度からの声を拾っていただきたいというふうに思いますが、その点についてはどうでしょうか。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） できるだけ多くの町民の皆さんのご意見をお伺いしたいというのが我々の本音でございますので、今ご提案いただいたことも含めて検討させていただきたいと思えます。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） ぜひ8月まで、日にちがないかもわかりませんが、私は大切な公共交通であるし、地域の大きな財産であるというふうに思いますので、ぜひとも北勢線をどうするかという声を、ありとあらゆる角度から拾っていただきたいというふうに思えます。

それとあわせまして、利用者を増加させるための手だてですね、東員町独自の利用促進というのはどういうふうに考えていらっしゃるのか。そして東員町の乗客数というのは定期買い、通勤通学、このところどういう数字で推移をしているのか、これは課長にお願いいたします。

議長（南部 武司君） 近藤行弘政策課長。

政策課長（近藤 行弘君） 東員町独自というより、これは2市1町で北勢線対策室というのをつくっておりますので、ここでしっかり増加についての手だてなりを考えて、イベント等もやっております。それによって実績がどれだけ増えたかといわれるのは、数字にはあらわれてないか知りませんが、議員おっしゃられるように、230万人が利用する鉄道です。ここをしっかりと考えていかないと、なかなかこの問題というのは難しいと思えます。

それと各駅の利用状況でございますけども、多分これは一度お示しをさせていただいたことがあるんですけども、東員町の場合、まず東員駅は平成23年度で定期買いが5万4,000人、通勤定期が4万1,000人、通学定期が5万1,000人、合計14万7,000人強ですね。穴太駅ですと、定期買いが3万8,000人、通勤定期が3万9,000人、通学定期が4万8,000人、合計で12万7,000人という形になっております。

以上でございます。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 今述べていただいた数字は、当初、三岐北勢線を継続する時に立てられたシミュレーションの中での数字とすると少ないのか多いのか、ちょっとお願いいたします。

議長（南部 武司君） 近藤行弘政策課長。

政策課長（近藤 行弘君） 近鉄様から三岐様に存続をお願いした時点で立てた数字が平成24年度で多分304万人、それが今、230万人なんですわ。だったらそれは一体どうなのかという話なんですけども、実はもっとすごい数字がございまして、ピーク時が昭和50年で597万人、多分先生おっしゃったぎゅうぎゅう詰めの時です。それから平成13年度に約50%の260万人に減ったと。この時に7億円の赤字が出始めたもので、近鉄がもう手を上げられたということでございます。

以上です。

議長（南部 武司君） 大崎潤子議員。

14番（大崎 潤子君） 230万人の方が乗っている大切な公共交通でございますので、ぜひ何とか存続をしていただきたいというふうに思います。

最後に、平成25年度以降、補助金を出すといたしましても、その都度、補助金を出したことよっての検証は必要だというふうに考えます。検証には地方鉄道を地域の社会資本として位置づけて、地域が必要な経費を負担するという発想の転換も必要ではないかというふうに思います。

三重県は北勢沿線地域をモデルとした新たな総合交通計画策定委託業務報告書、2004年9月において、総合交通の視点から、費用対効果分析を出しています。そこでの費用便益比は1.44となり、社会的に見て、全費用を上回る便益を上回ると想定されると、北勢線を見ているわけでございます。こうした資料も住民に周知しながら、鉄道存続の合意形成をぜひとっていただきたいというふうに思います。

どうぞ町政懇談会、多くの皆さんに出席をしていただいて、いろんなお声を拾っていただいて、そしてまた、それ以上にアンケートなり、また小さな集会なり、あるいは行政にいらっしゃる方、窓口でもいいですから、何か簡単なアンケート、そういうのを置いていただいて、本当に多くの皆さんの声を拾っていただいて、北勢線について、前向きに検討していただくことをお願いして、一般質問を終わります。